

## 令和6（2024）年度第1回総合教育会議 概要

- 1 日時 令和6（2024）年9月24日（火） 午後4時15分～午後5時23分
- 2 会場 柏崎市役所4階 4-3・4-4会議室
- 3 出席者 櫻井市長、近藤教育長、米谷教育委員、阿部教育委員、梅田教育委員、飯塚教育委員  
事務局（井比総合企画部長、金子総務課長、本間教育部長、田辺教育総務課長、矢沢学校教育課長、山之内学校教育課主幹、布施教育総務課長代理、茨城教育総務課総務企画係長）
- 4 傍聴者 0人
- 5 報道 新潟日報社、柏崎日報社、朝日新聞社
- 6 概要
- (1) 開会挨拶 櫻井市長
- (2) 議事

### ア 学区再編方針の改訂及び指針の設定について

柏崎市立小・中学校学区再編方針の改訂及び指針の設定について了解を得た。

[説明・意見交換]

(事務局) 教育委員会では少子化による児童生徒の著しい減少に鑑み、令和3（2021）年12月に柏崎市立小・中学校学区再編方針を策定し、柏崎の将来を担う子ども達に望ましい教育環境の提供に鋭意取り組んでいます。学区再編を今後も継続的に進めるにあたり、令和4（2022）年度から令和5（2023）年度の2年間に亘り行われた学区等審議会の審議や答申の内容、地域住民や保護者から寄せられた学校統合に対する意見、児童生徒数の推移を反映させ、さらに統一性と計画性を持ち、取り組む必要があると認識しています。ついては、令和3（2021）年12月に策定した学区再編方針の一部を改訂するとともに、付随事項について指針を設定したいと考えています。具体的な内容については、資料2の柏崎市立小・中学校学区再編方針の改訂及び指針の設定について（案）のとおりです。

（※事務局が別添資料「学区再編方針の改訂および指針の設定について（案）」により説明）

(市長) 今の説明に関して、御質問や御意見を伺う。

(阿部) 学区再編は、非常に大変でさまざまな影響がある問題と考えております。令和3年に策定した学区再編方針から3年が経過し、物事が急速に変化していることから、統合基準は、時代の変化に合わせていかざるを得ないと思います。市民からの賛同を得にくい事案と思いますが、可能な限り希望に添えたいと言いつつも、限界があります。今後進めていく際は、多様化に対し、できる限り丁寧に対応することとし、原案のとおり進めていただきたい考えです。

(飯塚) 資料2 ページ「主体的・対話的で深い学び」の更なる推進に「子ども達が将来をたくましく生きていくために必要となる資質・能力」があります。その次に「全国の小・中学校で実践されている」とあります。私が読んだ、「自立する子の育て方」

の本では、「必ずしもそれが学校で実践されていない」、「そこが日本の教育の大きな問題点」と書かれていました。次の議題の「学力向上推進プロジェクト」に繋がりますが、この資料に書かれていることが主でありますし、従としては、「学力向上」であります。あまりにも一線を越えてくる「学力向上」となった場合は、本来の目的を外れてしまう可能性があるのではないかと感じました。

(梅田) 保護者のお話を聞いている中では、小・中学校学区再編についての統一性と計画性があるところは、学校に入学した時から見通しがつき、子どもを育てる中で考えていくことができることと、小規模特認校の関係で北条小学校の場合も、選択できる道があることが個人的にも必要と感じます。また、第五中学校施設の利活用の内容を見させていただき、通学距離の関係が不安になった場合に、中間地点にそういう場所を作れたらと思います。今、放課後の子ども教室をこども自然王国で行っていますが、放課後に鯖石小学校から高柳に帰ってくる場合や、通学が遠くなった場合に、第五中学校あたりの中間地点にそういう場所ができると、不安材料が少し減るとも考えが思い浮かんでいます。

(米谷) 学校訪問で、自然や伝統が豊かで地域の人が学校に協力的な、柏崎市の良い環境の学校を見せていただき、児童生徒数の減少により、学区再編をしなければならないことは残念だと思います。しかし、この動きが急速で、数字にも示されていますので、学区再編方針通りに進めて良いと考えております。

学校訪問で複式学級の様子を参観しました。一つの教室の中に、二つの学年が同時に前方と後方で別の授業をしながら、先生が行き来しており、望ましい環境とは言えないことを実感しました。中学校の複式学級は、現実的に無理だという事を教職員から聞きまして、生徒数の減少には対策が必要と感じました。また、先生方との懇談の時間には、若い教職員から、少人数の学校の体制は教職員にとって不安な状況があると聞きました。教職員が少ないと、先輩や同じ教科を教える職員が少なく、同学年の先生で話し合いをする機会もないという悩みを聴き、相談や切磋琢磨する環境が限られてくるという、これからの子ども達を育てていく若い教職員の成長する職場の環境という観点からも、児童生徒数の少ない学校は、ある程度問題を含んでいるのではないかと感じました。

最後に、資料2ページで追加されている「主体的・対話的で深い学びの更なる推進」についてですが、学習指導要領に記載されているこのことを、学区再編の地域への説明会では理解していただくことが一番大事ではないかと思います。

学区再編の対象になった子どもや保護者、また対象の地域の方々は、ストレスがかかる状態に陥ります。ご理解いただくためには、2030年代、それ以降生きていく子ども達がどのようなことを学ばなければならないか、それを示した学習指導要領に沿って教育環境の整備を進めていることを、教育委員会はしっかりとお伝えし理解していただくことが大切だと思います。

(市長) 「柏崎市立小・中学校学区再編方針の改訂及び指針の設定について」を皆さまから御了解いただけるということによろしいか。

(委員) 異議なし。

## イ 学力向上推進プロジェクトの中間評価と今後の取組

学力向上推進プロジェクトの中間評価と今後の取組について共有を図った。

[説明・意見交換]

(事務局) 学力向上推進プロジェクトの中間評価と今後の取り組みについて御説明させていただきます。

(※事務局が別添資料「学力向上推進プロジェクトの中間評価と今後の取組について」及び別紙資料により説明)

(市長) 今の説明に関して、御意見を伺いたい。

(米谷) 小学校については、教育センターを中心に、先生方の学校間の交流、オンラインで、各校の優れた事業の紹介、研修会を熱心にされており、これが学力の向上に繋がったのではないかと、成果が出て良かったと思います。

中学校時代は、勉強することに関心が向きにくい生徒さんも多い時期ではないかと思われ、どこにモチベーションを見出せるかが一番大事ではないかと思います。社会にもっと広く目を向けてもらうことが一つです。将来自分が社会人となり、就職してどのような経験をするのかということに中学生が興味を持ち、「今後、社会では、自分を助けるためには、勉強していかねばならないんだ」ということを新聞や様々な情報から感じ取ることが出来ます。また、周囲の先生や家族など大人の姿を見て、勉強へのモチベーションが高まる機会があればと思います。

これからの時代は、自分自身をよく見定め、何をしたら向上できるか判断をして、この勉強にトライしてみようという気持ちが、就職してからも違いを生むという若者の声を聞きます。勉強をして、ベーシックなことがわかると自信がつき、続けていくことにより、新しい世界が見えて更に面白くなる感じを持てると良いと思います。もちろん、高校に入りたいという目の前の目標に向かい一生懸命勉強し、基礎的な学力を身に付けていくことからのスタートでもよいと思います。子どもは感じる力が豊かで、学校で大勢の中に入れば、「あの子は自分よりもこれが優れている」、「自分はみんなよりこれが苦手だけどこっちはみんなよりできるかも」というような小さな自己肯定感が自然と生まれるのではないのでしょうか？自分の長所を見出し、学びへのモチベーションを高めてほしいと思います。

(梅田) 米谷委員のお話を聞き、どのようにモチベーション上げていたかと、子どもがどのようにしたら勉強したかを考えました。学校訪問で、授業の様子が全く自分の時とは違い、先生が一方的に話すことはなく、自分の考えを皆さんに話し、主体的で対話的な深い学びになるように先生方が電子黒板やタブレットを使用する方法になったことを拝見しました。教室では、皆さんの声であふれており、少しずつ伸びてきていると感じました。勉強はどのようにしたらやる気になるかが難しいところだと思います。学んでいくことが将来に繋がり、さまざまな人に出会い、人と関わる場が大事なことだと思います。

(飯塚) 宿題ですが、学年プラス10分などの決まり事が学校からありますが、私の家では、16時から16時半までの30分は宿題や勉強の時間にするとということにしています。時間を決めて宿題や本を読んでも良いということで、親が手出しや口出し

をしないこととし、子どもの能動性に任せることにしています。サポートとして、本人の能動性を何とか引き出すように試行錯誤しています。懸念は、3年生だったら30分プラス10分、40分の勉強時間が必要だよということを親が子どもに、あまりに押し付けてしまうと、子どもが窮屈になり、宿題をしなくなり、宿題をやらなければこれをさせないというような家もあるのではないかなと思います。子どもの能動性を引き出せるようなやり方を学校と家庭で情報共有していくことで、それが最終的に子どもの学力向上に繋がってくると思います。英語ですが、先ほどと通ずるのですが、私は興味のあることは今でも覚えています。大人と同じですが、子どもも能動性がないと頭に入らないですので、いかに能動性を引き出すサポートができるかということだと思います。そういう中で、英語の教科書にあるような、決まりきったものから一歩外れ、子ども達が興味ありそうなものを取り上げると、頭の残り方が違うと思います。いかに子ども達の能動性を引き出すかに着目して、私自身もそうですし、また何か少しでも学校の教育現場でそういった取り組みが行われるとありがたいと思います。

(阿部) 学力を向上するとは、受験に特化していくことがイコールなのか。学校の成績も大事ですけど社会に出てからの学校の成績ではない部分である適応能力として求められる、頭の回転の速さとひらめきなどを養うことだと思います。自らがやる気を起こさない限り何をしても駄目だというのが、自分の経験と子どもを育ててきた経験で、いかに気付かせるか導いていけるかの部分だと思います。問題点は、受験の話がありましたが、柏崎の高校は、すぐに入れてしまいます。頑張ろうとする子どもは、長岡や新潟に行き、市外に流出してしまいます。柏崎地域の学力向上には、生徒・児童が目標を定めて、自らがそこに向かっていくしかないと思います。デジタルが合う子どもやアナログに覚えていく子どもがいると思いますが、自らが自分に何が合うのかを見定めていくしかないと思います。それをいかに手助けしてあげられるかということだと思います。中学校の全国との数字を見比べ、愕然とする数字ですが、学年で勉強が好きでない方が多いのか、慢性的に中学校に行くと何かの要因により、全国、県よりも、追いついていないかは分かりません。市の学力向上プロジェクトも、年数が経過し結果が欲しいと思います。具体的な提案はありませんが、自らを高めていこうとする気持ちに持っていけるかが必要になってきますので、もう2段階ギアを上げていかないと厳しい感じです。

(市長) 最後に阿部委員からお話がありましたが、数字として県との開き、全国との開きが縮まらない、もしくは広がっているという現実です。教育委員会も非常に深く認識をして、英語の学力向上対策を含めて、先般8月下旬に、教育長が校長を集めて、各学校の先生方に督励をしたところです。教育は、まさに町づくりの基本である、と思います。人づくり、町づくりと言いますが、人づくりの中でも特に小学校・中学校の義務教育期間は、学力のみならず、気持ち、心を養う、育成するという非常に大事な時期だと考えています。学力とともに徳育、体力も含めて向上できるように少しでもこの差が縮められるようにという意識は持ってまいりたいと思います。

「学力向上推進プロジェクトの中間評価と今後の取り組みについて」了承いた

けることでよろしいでしょうか。

(委員) 異議なし。

(市長) 以上で議事を終了とする。教育委員の皆様へ感謝申し上げます。

(3) **閉会**